

# 消化器系 I

[M2-30059Z1]

## 1 ユニットの概要

消化器系の機能の基本的な知識を習得し、上級学年で消化器系疾患の病態生理を的確に理解できるよう準備することを目的とする。

## 2 金沢医科大学の到達目標（アウトカム）

- ①患者中心・コミュニケーション・チーム医療
- ②医学知識と技能
- ③豊かな人間性と倫理観
- ④生涯学習
- ⑤地域医療・社会貢献
- ⑥科学的態度・探求心

## 3 ユニットの到達目標（アウトカム）

※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学の到達目標との関連を示す。

- 消化器系に関わる主要な生体機能を理解する。(②⑥)
- 消化器系疾患について病態生理に関する思考実験を試みることができる。(①②③④⑤⑥)

主要な生体機能：消化管運動の仕組み；消化器官に対する自律神経の作用；歯、舌、唾液腺の機能；胃液の作用と分泌機序；肝臓・胆嚢・膵臓およびその分泌液の機能；小腸における消化・吸収；大腸における糞便形成と排便の仕組み；その他、臨床検査や臨床推論の基礎となる考え方。

## 4 学習方略

統合型講義、実習

## 5 評価

評価区分	評価項目	評価の対象	評価割合
形成的評価	授業中適宜質疑	知識	
	授業の出席	態度	
総括的評価	ユニット試験	知識	90%
	総合評価	知識・態度	10%
合計			100%
ユニットの単位認定は授業の出席、ユニット試験の結果を主として授業中の態度などの結果を加味して最終的に行う。			

(特記事項)

試験範囲は「ギャノン生理学」(最新版)の対象範囲、および、その理解の基礎となる解剖学である。進級判定基準において、脳・神経・感覚器系、腎・尿路系、消化器系のいずれかまたは複数に不合格がある場合、これらをまとめて不可科目1つとして取り扱う。

## 6 授業スケジュール

別項参照

## 7 事前事後学修について

教科書の該当部分を読んでおくこと。

シラバスの資料についてあらかじめ印刷し、目を通しておくこと。

【自己学習(事前事後学修)に必要な時間】

1時限当たり 予習 45分、復習 45分

## 8 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

授業中の質疑によって知識の形成状況を掌握し、授業中に解説する。

## 9 教育担当者

ユニット責任者：小野 宗範 (生理学 I)

教 授 小野 宗範 (生理学 I)

教 授 加藤 伸郎 (生理学 I)

准 教 授 山本 亮 (生理学 I)

講 師 古山 貴文 (生理学 I)

## 10 参考図書・文献

購入すべき図書

岡田泰伸ほか (訳)：ギャノン生理学，原書 26 版，丸善

購入するとよい図書

小澤澗司、福田康一郎 (監修)：標準生理学，第 9 版，医学書院

## 第2学年

## 消化器系 I

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	コアカリ項目	講座名	教員名
前	1	8月29日 (火)	3	講義	消化管運動と電気現象・膜輸送経路1	C-2-1)-(1)-②,C-2-1)-(1)-③,D-7-1)-(4),D-7-1)-(5)	生理学 I	小野教授
前	2	8月30日 (水)	1	講義	消化管運動と電気現象・膜輸送経路2	C-2-1)-(1)-②,C-2-1)-(1)-③,D-7-1)-(4),D-7-1)-(5)	生理学 I	小野教授
前	3	8月30日 (水)	2	講義	口腔における消化と嚥下	D-7-1)-(8),D-7-1)-(10)	生理学 I	小野教授
前	4	8月30日 (水)	3	講義	胃の運動と胃液の分泌	D-7-1)-(7)	生理学 I	小野教授
前	5	8月31日 (木)	1	講義	膵液の分泌・肝と胆汁	D-7-1)-(6),D-7-1)-(8),D-7-1)-(9)	生理学 I	小野教授
前	6	8月31日 (木)	2	講義	小腸・大腸	D-7-1)-(10),D-7-1)-(11)	生理学 I	小野教授
前	7	8月31日 (木)	3	講義	消化管ホルモン	D-7-1)-(12)	生理学 I	小野教授
前		8月31日 (木)	7	特別講義	特別講義			
前	8	9月01日 (金)	1	講義	栄養素等の消化と吸収 1	D-7-1)-(10)	生理学 I	小野教授
前	9	9月01日 (金)	2	講義	栄養素等の消化と吸収 2	D-7-1)-(10)	生理学 I	小野教授
前		9月07日 (木)	7	特別講義	特別講義			
前		9月22日 (金)	1	特別講義	特別講義			
前		9月22日 (金)	2	試験	本試験			
前		9月22日 (金)	3	試験	本試験			